

⑩常磐道 三郷料金所スマートICフル化事業

受賞機関 東日本高速道路株式会社 関東支社 谷和原管理事務所
三郷市 まちづくり推進部

キーワード スマートICフル化、渋滞対策、地域の活性化

全建賞審査委員会の評価ポイント

常磐道三郷料金所スマートICフル化は、東京方面の出入口を整備する事業で、観光・物流の促進や周辺道路と連携したネットワーク強化が期待される。工事途中で、本工事に起因すると見られる渋滞悪化が確認された後、原因追求、改善策の実施により、その渋滞を低減した点が評価された。

1. はじめに

常磐道 三郷料金所スマートICフル化事業は、全国初の本線料金所に併設するスマートICとして、平成20年12月に水戸方面の出入口が、社会実験として運用を開始した。その後、令和2年10月に東京方面の出入口を整備する事業として事業化され、令和7年3月22日に供用を開始した。当該スマートICのフル化整備により、東京方面への利便性の向上による観光や物流など、地域活性化が促進され、令和5年11月に開通した三郷流山橋有料道路と相まってネットワークの形成と機能強化が図られた。

2. 事業の概要

本事業は、アクセス道路の整備を三郷市、本線接続部分及びランプを当事務所が担当し、施工ステップを共有する等の綿密な調整を行って施工した。三郷料金所スマートICの常磐道本線接続部の施工に当たっては、交通量が1,040百台/日と多く、レーンへの移動のためのウィービング（車線変更の繰り返し）による渋滞が発生しやすい三郷本線料金所に近接して整備されることから、安全対策や渋滞に配慮した施工が必要であった。工事に必要な仮設防護柵の設置に当たっては、現況の片側3車線を確保しつつ、施工ヤードを確保するという必要最低限で計画した。しかし、走行車両に圧迫感を与えて速度低下や不必要な車線変更を誘引し、渋滞を悪化させることを確認した。渋滞を低減するため、交通量の低下する夜間の車線規制により、施工ヤードは必要に応じて確保することとし、仮設防護柵の設置位置を圧迫感のない位置へ変更した。この結果、悪化していた渋滞は低減され、多く寄せられていた苦情等もなくなり、円滑に工事を進めることができた。



三郷料金所スマートIC周辺図

3. 事業の成果

三郷料金所スマートICの位置する三郷市内は、地理的優位性から企業の立地需要は高く、三郷市及び隣接する吉川市は、スマートIC周辺エリアを産業系ゾーンに設定し、新たな産業基盤づくりを計画している。スマートICの整備により、企業誘致の促進や地域活性化が期待される。また、年々増加している観光地への来訪や大型商業施設へのアクセスも渋滞を回避することができ、広域的な観光客の増加が期待される。



三郷料金所スマートIC開通式（3月22日）

4. おわりに

本事業で整備した三郷料金所スマートICの東京方面出入口の交通量は、供用開始から5月末の速報値で28百台/日、全方向で69百台/日と多くのご利用をいただいている。事業用地をご提供いただいた地権者や工事にご協力いただいた皆さまに感謝するとともに、本スマートICを通じた地域社会の更なる発展に寄与すると期待される。

賛助会員 大林道路(株)